

また明日

愛知県立成章高等学校 二年

谷 口 萌

薄い言葉を重ねて

中身のない想いを約束する

信じていないとか言いつつ

疑ってもいない

必ずあるのだと

思い込んでいるだけ

力も意味も何も無い

その言葉の裏にあるのは

過剰な要求

過小な対価

負担は負わない

いつもと同じことの繰り返し

期待通りで

期待外れ

くだらない話

取るに足りない思い出

そんなもので溢れている

落書きのような毎日

それが幸せで

それが普通で

それを願っていた

いつまでも続くようにと

気がつけば

私たちは

大人になっていくけれど

それでも変わらない

何かを切望する

だから明日も

いつも通り

見たこともない

存在するかも分からない

そんなものを

約束する

報道写真

愛知県立明和高等学校 二年

大塚舞優

私を貫く

決して私を映さぬ瞳が

そこにあるのは 怒り？ 悲しみ？

それとも諦め？

知らなかった

違う 知ろうとしなかった

あなたの苦痛を

あなたの生きるその地獄を

壁の向こう あなたはずっと叫んでた

なのに 居心地の良い箱庭の中

関係ないと知らんぷり

今更気づいた 自分の罪に

赦しを乞うにももう遅すぎる

失ったものはあまりに大きくて

私に一体何ができる？

あなたの痛みの何がわかる？

行かなくちや。

そのままざしに身をさらすため

無視した声を受け止めるため

逃げずに罪と向き合うために

歩みを止めるな 問い続けるんだ

赦しも罰もないのなら

どうして苦しまなくちゃいけないの？

どうして私じゃなかったの？

写真越し 決して視線は交わらない

いつかこの壁を越えたなら

その目に私はどう映るだろう？

私はあなたに出会えるだろうか？

電車

愛知県立昭和高等学校 二年

佐藤花穂

特急の座席に飲みかけのペットボトル

キャップは固くとじられて

中身はたふたふと揺れている

電車のゆれに合わせて

乗客のゆれに合わせて

乗り降りのはげしい満員電車で

ずっと空席を保っている

だれも座らない

だれもどかさない

通勤ラッシュの時間

見知らぬ誰かが

ほうりこんだイレギュラーは

その日をきつと

すこし異様に変えるだろう